

手島印刷株式会社 手島史直氏・孝之氏を訪ねて

日時：2021年9月22日～10月6日

調査者：達 志保

場所：手島印刷株式会社 <https://www.teshima-p.com/html/aboutus.html>

.....

9月22日

「愛知用水概要図」（下に写真）は同名のものが4種類あり、よく見ると書き込まれた数字が違ったり、書き込まれた内容も異なるため、愛知用水土地改良区職員・岡田昌治氏から聞き取りをおこないながら、記された内容をもとに時代順に並べる作業をおこなっていた。

この日、では愛知用水運動に使われた『愛知用水の趣旨と理想』の付録になったという概要図は何番目に描かれた概要図のことだろうかと思っておいたところ、この冊子の奥付に「手島印刷所」と記されていることに気づいた。下の「愛知用水概要図」には「名古屋・手島印刷株式会社印行」と書かれていた。他の概要図には記されていないことから、冊子の奥付にある付録はこの概要図ではないかと考えられる。

そこで「手島印刷」を検索してみると、現在も手島印刷株式会社が名古屋市内にあることがわかった。愛知用水との関連資料、あるいは創業に関わるなにか資料がないか問い合わせのメールを送った。

問い合わせのメールに対して、留守電が入り、「祖父の仕事に間違いはないけれど、私たちがわかることはそんなにないと思います。その冊子を是非見せていただきたいです。」とのことであった。

手島印刷所は1932年1月に名古屋市西区枇杷島町にて創業し、手島印刷株式会社として法人化したのが1950年1月のことである。この冊子が1949年12月に刊行していることを考えると、この冊子の制作と会社設立とはなにか関係があるのかもしれない。また奥付には手島印刷所とあり、概要図が手島印刷株式会社となっているのはその理由が分からず、概要図にはもっと古いもの（印刷所時代の印刷のもの）があるのかもしれない。

9月26日

手島印刷株式会社に電話した。冊子の奥付にある手島喜一は祖父・手島（てしま）喜一であり、山口県出身で、名古屋で1932（昭和7）年に印刷業を始めたということだ。戦前には韓国釜山で会社を起こしたが、終戦前に戻ってきたという。もともと印刷業をしていたかどうかはわからないということだった。株式会社になる頃に父に代が変わっているようで（株式会社になるタイミングだったかどうかは未確認）、冊子や概要図といった祖父、父の当時の仕事を是非見てみたいとのことだった。

9月27日

冊子と概要図は愛知用水土地改良区のものなので、持ち出しの許可を得た。10月6日に手島印刷株式会社にお持ちし、資料を見ていただくことにした、

10月6日

『愛知用水の趣旨と理想』1949（昭和24）年12月、手島印刷所（手島喜一）刊行と「愛知用水概要図」手島印刷株式会社作成のもの、ほか3種の概要図を持って伺った。

対応して下さったのは代表取締役・手島（てしま）史直氏（1951年生まれ）とその弟・孝之氏。

祖父・手島喜一、韓国釜山で印刷業を始める。

1932（昭和7）年 名古屋にて手島印刷所創業

1949（昭和24）年12月 『愛知用水の趣旨と理想』刊行

1950（昭和25）年1月 父・忠治（1924〈大正14〉年生まれ）が手島印刷株式会社に。

「愛知用水概要図」作成

手島史直氏は、この歳になり、これまで考えてもいなかった父や祖父の昔のことを知りたいと思うようになっていたとのこと。そのタイミングで今回連絡を受けたとのこと、歓迎して下さった。『愛知用水の趣旨と理想』をご覧になって、「活版印刷ですね」とおっしゃって、鉛は何枚も印刷していくとすり減っていくので、そんなに大量には印刷できないことをご教示下さった。

「愛知用水概要図」は、手島印刷株式会社と書かれた概要図が同社で更新されていたのだろうと思っていたが、ご覧になり、他の概要図は別会社のものだろうとの指摘があった。その根拠は手書きの字の違い、概要図のなかの方角のマークの記し方の違いなどがあがった。字の違いと言われ、同じ人の字と思いきや、こうした印刷物は活字を並べていたらたいへん長い行になってしまうようなところを手書きにすることで枠内におさめる調整をしているとのことだ。つまり収まるように書いているため似たような字になるのだろう。そう言われて見直すと理解できた。

現在であれば僅かな時間で完成するだろう概要図だが、当時はいったいどのくらいの時間がかかったのだろう。石の上に描いてそれを刷るという作業はとても手間なものなのだという。またこの作業は石を磨いてしまえば次のものが作れるため、現物も石版もなにひとつ残っていないということだった。

なぜこの愛知用水に関わる印刷を手島印刷がすることになったかはわからなかったが、手島印刷は学校関係の仕事を受けていたこと、映画ポスターを作っていたということで、手書きの概要図を作るのに適していたからではなかったかとのことだった。

愛知用水概要圖

(木曾川綜合開發第一號)

木曾川綜合開發第一號(愛知用水)の概要は、以下の通りである。

一、愛知用水の概要
 1. 愛知用水の概況
 2. 愛知用水の受益地域
 3. 愛知用水の水源
 4. 愛知用水の取水口
 5. 愛知用水の導水路
 6. 愛知用水の貯水池
 7. 愛知用水の発電所
 8. 愛知用水の灌漑施設
 9. 愛知用水のその他の施設

二、愛知用水の受益地域
 1. 愛知用水の受益地域(愛知県)
 2. 愛知用水の受益地域(岐阜県)
 3. 愛知用水の受益地域(静岡県)

三、愛知用水の水源
 1. 愛知用水の水源(木曾川)
 2. 愛知用水の水源(長良川)

四、愛知用水の取水口
 1. 愛知用水の取水口(木曾川)
 2. 愛知用水の取水口(長良川)

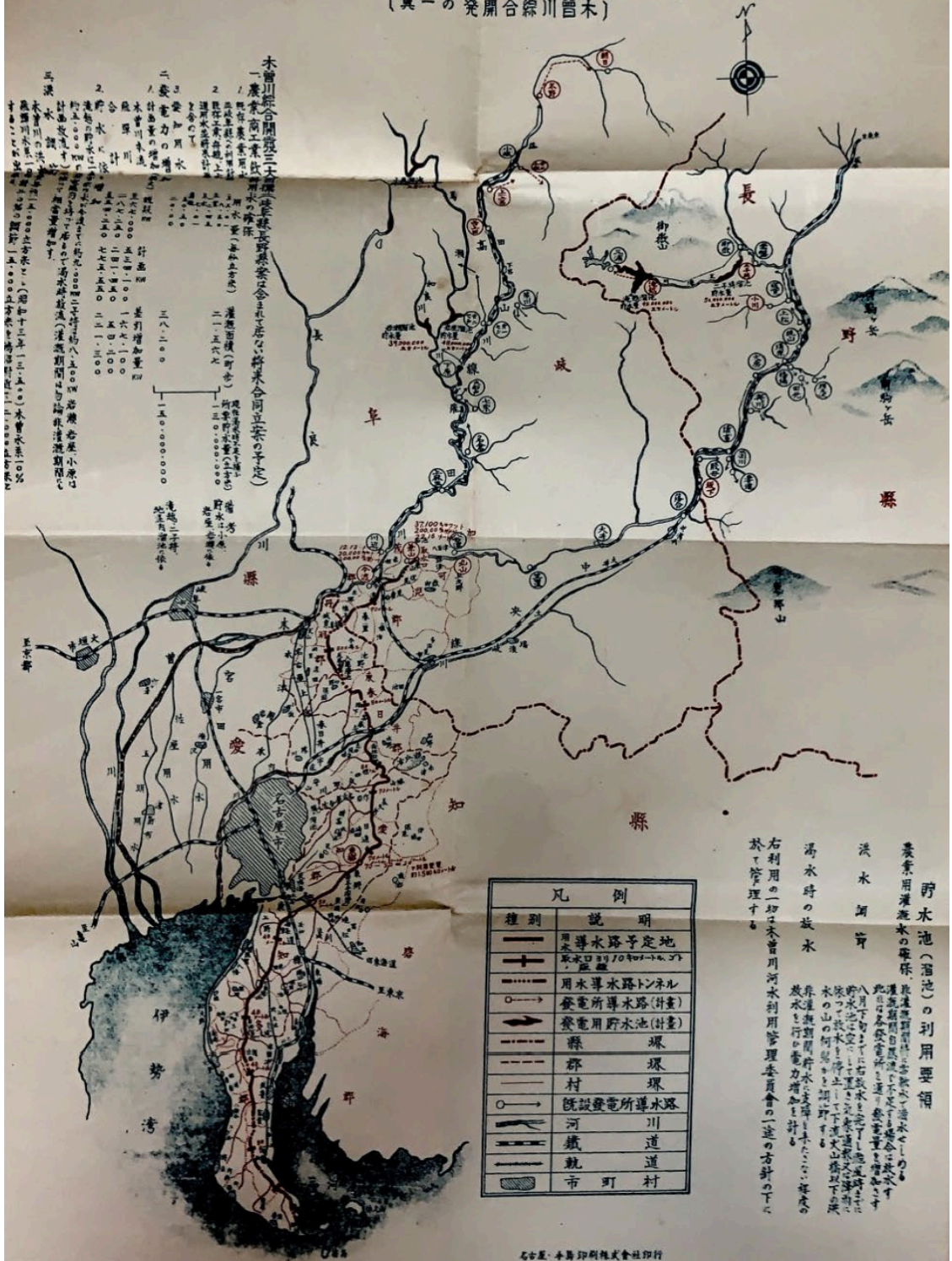
五、愛知用水の導水路
 1. 愛知用水の導水路(木曾川)
 2. 愛知用水の導水路(長良川)

六、愛知用水の貯水池
 1. 愛知用水の貯水池(木曾川)
 2. 愛知用水の貯水池(長良川)

七、愛知用水の発電所
 1. 愛知用水の発電所(木曾川)
 2. 愛知用水の発電所(長良川)

八、愛知用水の灌漑施設
 1. 愛知用水の灌漑施設(木曾川)
 2. 愛知用水の灌漑施設(長良川)

九、愛知用水のその他の施設
 1. 愛知用水のその他の施設(木曾川)
 2. 愛知用水のその他の施設(長良川)



凡 例	
種別	説 明
——	用水導水路予定地
——	取水口(1000m以下)
——	用水導水路トンネル
——	発電所導水路(計画)
——	発電用貯水池(計画)
——	縣 界
——	郡 界
——	村 界
——	既設発電所導水路
——	河 川
——	鐵 道
——	航 道
——	市 町 村

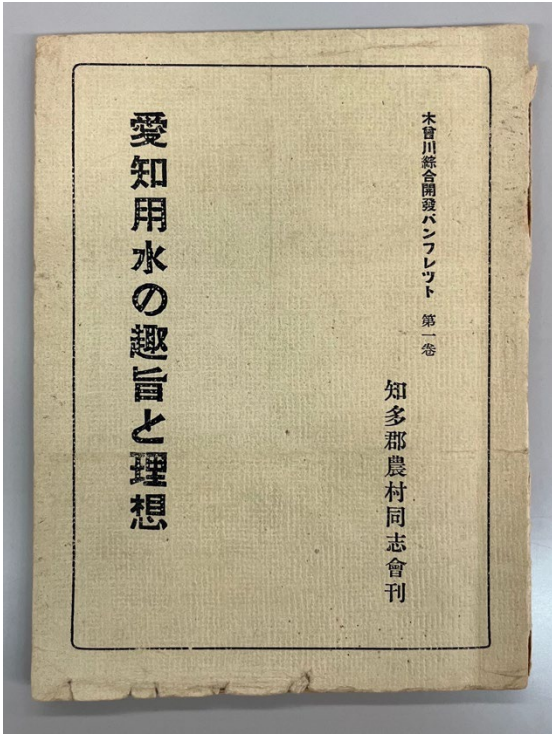
貯水池(溜池)の利用要領

農業用灌漑水の確保
 灌漑期間日不足を補つて灌水せしめ、農業生産を確保す。此は、各受益地所と連り、発電量を増加す。

洪水調節
 八月下旬より、右放水と完了し、貯水池に水を貯め、冬期に放水して、下流に洪水を調節する。非灌漑期間貯水池を維持し、洪水の放水を行つて電力増加を計る。

放水時の放水
 右利用の一切は木曾川河水利用管理委員会の一途の方針の下に於て管理す。

名古屋・本島印刷株式会社印行



昭和二十四年十二月十八日印刷
 昭和二十四年十二月二十日發行

【定價五〇圓】(附録共)(地圖共)

著作發行人 半田市南大股町 知多郡農村同志會
 印刷人 名古屋市西區枇杷通リ一ノ三 島 喜一
 印刷所 名古屋市西區枇杷通リ一ノ三 島 印刷所
 發賣所 知多郡農村同志會
 取次販賣所 半田市役所内 愛知用水期成同盟會
 愛知縣農政課内 愛知縣農村同志會
 知多郡各町村 農村同志會

(公財) 愛知・豊川用水振興協會研究員 遠 志保